

# 昭和学報

昭和女子大学  
〒154-8533 東京都世田谷区太子堂  
03(三四一一)五二一八  
編集発行人 鈴木 円

## 継承ということ

歴史文化学科長 大谷津 早苗

三月一〇日、ある新聞記事に目が留まった。国の文化審議会の、国宝・重要文化財(美術工芸品)の答申に関する記事である。重要文化財(美術工芸品)五〇件の中に、覚えのある生目神社所蔵木造神王面が挙がっていた。

後日向の地に流されたが、源氏の繁栄する世の中を見たくないという自ら目をえぐり空に投げつけて落ちた所、という伝説が残る。それを物語るかのように、本殿の裏山には落ちた目が引つ掛かったという「目かけの松」がある。

三月二四、二五日、宮崎県児湯郡西米良村へ出張した。昨年国の選択無形民俗文化財になった「米良山の神楽」記録作成調査委員会に出席するためである。そこでお目にかかった宮崎民俗学会の那賀教史先生が「先生に調査していただいたあの面が重文になります」と。やはりあの仮面だったのだ！かつて生目神社へご案内くださったのは那賀教史先生であった。

先生と感動を共にしたのと同時に、あの折調査にお連れくださった恩師の思い出が胸に熱くよみがえった。

か、と能面史に位置づけ後日「生目神社所蔵の仮面について」という研究ノートにまとめた。『年刊藝能』第四号(平成十年三月 芸能学会)に発表した研究ノートを那賀先生にお送りして調査報告にかえさせていただいたが、数年後、宮崎市指定の有形文化財になったことを伝え聞いた。

研究ノートは今読み返すと習いたての学生のようである。造形物の形状を言葉で表すことはなかなか難しく人によって表現も様々である。挿鉢式、王鼻型等は後藤先生の用語で、懐かしさがこみ上げた。

世阿弥の初期の伝書「風姿花伝」は芸の師匠であった父観阿弥から受け継いだ教えが書かれているが、晩年の「花鏡」には師を失った後自ら拓いた考えが書いてある。「風姿花伝」は人生とはいかなるものかを教えてくれる書でもある、ということも先生の授業で習った。

自分は何を体得したのか、何が拓けたのか、あらためて問い直した。(おおよつ さなえ)



生目神社所蔵「木造神王面」(寛治二年銘)

恩師後藤淑先生(当時昭和女子大学大学院教授)は能面研究、仮面研究の第一人者で、

那賀先生には、後藤淑先生に生目神社の仮面の歴史的価値を鑑定してもらいたいとの意図があったものと思う。

平成九年五月五日、那賀先生、後藤先生、私の三人で生目神社に伺い、三つの仮面を調査させていただいた。そのうちの一面が今回重文指定を受ける仮面である。

類は掛面(民間信仰面)。材質は檜かと思われる。法量タテ五・一cm、ヨコ三・〇九cm、深さ一五・五cm、作者不明。ほとんど木地のままで、目が球形で突出したように作られている。瞳を丸く小さく削り貫き、裏の瞳孔は挿鉢式。鼻は王鼻型、閉口の下から左右一本ずつ牙がでている。額中央に宝珠を刻す。裏に土持右衛門尉田部通綱、寛治二年五月日の墨銘がある。

倉時代前半の年号。土持氏は土地の豪族で、土持右衛門尉田部通綱が寛治二年(一二四八)に奉納したのと思われる。

古い能面はこのように民間信仰面を参考に作られた可能性はないだろう。



昭和女子大学は2020年100周年を迎えます。

- 今月の昭和学報は
- (2) 奨学金授与………
  - (3) 留学生による留学生支援の会 留学生マナー講座………
  - (4) 学寮報告………

## 創立九八周年記念式典を挙

五月一日(火)、雲ひとつない晴天のもと創立者記念講堂にて創立記念式典を挙行した。昭和学園は、人見圓吉先生が女子教育の理想を掲げ歩みはじめたから今年で九八年を迎えた。式典では、中高部生徒一七五名による「新しき日」の美しい歌声が披露された。坂東眞理子理事長・総長の式辞の後、心理学科三年沼澤香奈さんと霞紫帆さんのナレーションによるスライド「学園の創立によせ



### 光葉博物館 春の特別展

図書館七〇周年・近代文庫六〇周年記念(会期 6/1~6/30) ことばのいろ。ことばのおと。人見東明と白秋・露風の詩の世界

今年、本学図書館が開設されて七〇周年、近代文庫は創設六〇周年を迎える。本展はそれを記念し、光葉博物館と図書館との共催で企画された。日本の近代詩の成立と

とくに、本学所蔵の貴重な資料を中心に、明治末期から大正初期の東明白秋、露風の作品の中から「宗教・異国趣味」、「女性」、「季節・色彩・音」が表現された作品を取り上げる。あらためてこの時代の詩作品に触れ、ことばが描く「いろ」や「おと」が奏でる「おと」を鑑賞していただきたいと思います。



同時期に八号館の図書館では、特別展「図書館七〇年の歩み」を開催し、図書館の歴史や貴重な所蔵資料を展示している。ぜひ七号館の博物館とあわせてご観覧を！ (光葉博物館)



文化講座

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団 (4/20)



四月二〇日、初めての文化研究講座「東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団」のコンサートを受講した。梅田俊明氏の指揮、渡辺玲子氏の独奏ヴァイオリンにより、

全三曲のオーケストラ曲が演奏された。華々しく躍動感に溢れるものから、独奏ヴァイオリンとオーケストラの激しい掛け合いまで三曲とも聴き手を引きつける素晴らしい演奏であった。途中、指揮者による楽曲や楽器の解説とともに、それぞれ楽器の音色の違いを聴くことができた。その一つひとつの音が重ね合わさることで演奏に厚みと重み、またスピード感が生まれるのだと改めて実感した。クラシックコンサートは、私たちがより上の年代の方々が楽しむものだという思い込みがあったが、わ

写真でみる学園の風景

一日の始まりは朝食から



頭と体にチャージ完了!

1 講時前に朝食を食べにソフィアへ。おかずが3品選べる定食B(200円)を注文しました! 毎日10~15種類のおかずの中から自由に選べるというのも嬉しい。



学友会の提案でソフィアにて4/11~27まで朝食サービスを提供定食A(おかず2品)は150円

日本の当たり前はどう見える!? 留学生が街で見かけた面白いもの!

留学生から見た日本。留学生が街に出かけて情報収集をして、面白いものや、不思議に感じたことをプレゼンテーション。

●発見1:「喫煙所」

屋外の喫煙所が不思議~! イタリアでは屋内で分煙されていないので路上喫煙は、普通ですよ~!

●発見2:「コンビニ」

イタリアにはコンビニがありません! 夜7時で閉まるスーパーが普通です。日本は本当に便利ですね~!

●発見3:「自動販売機」

イタリアの自動販売機は高い上に、水とコーラくらいしかありません。日本は飲み物だけでなく、種類も豊富でほんとにすごい!

●発見4:「食品サンプル」

リトアニアでは、食品サンプルは、お店のメニューとして使われていません。目で見てどんな食べ物かわかるようにするなんて日本ってすばらしい!

●発見5:「サラリーマン」

タイは暑いので、通勤時は風通しがよくカラフルで動きやすい服装が当たり前。日本のように統一されたような黒っぽいスーツでの通勤は不思議です。

●発見6:「マスク」

イタリアではマスクをしている人をみかけません。病気になれば家で休むのが普通。マスクしている人はとても重い病気にかかっているのかと思ひ、大丈夫ですか~!?! と心配になります。 Intermediate Japanese Fより



四月二五日、心療内科 医、海原純子先生による



「女性が元気にいきいき生きるために必要な心と身体」 (4/25)

第一回女性教養講座が行われた。生活習慣やアルコールとの付き合い方、ストレスによる身体と心への関係、影響についてご自身の経験を通してわかりやすく教えてくださった。ネガティブなことや発言するにも、上を向いて言うのと下を向いて言うのとでは、同じ言葉であっても上を向いて発する方が、よりLightに

で、敷居の高かったクラシックコンサートをより身近に感じることができ、とても充実した時間となった。(国際 山田菜々子)

捉えられることがわかった。受講者参加型の改善方法により、深く理解することができた。初めての女性教養講座で、基本となる健康・美容の大切さ、女性がより自分らしく生きるためのポイントを学んだことをしっかりと頭に入れた。海原先生のご著書『今日一日がちな一生』というタイトルのからも一日の積み重ねが大切だと痛感した。自分らしく健康で、短い学生生活を一日一日を大切にしていきたいと思った。今回学んだことを生かしていることにチャレンジしていきいたいと思う。(学報委員 山田有瑠奈・中村 萌)

先生の研究室訪問 諦めずに進む力を



國分先生とゼミ生

初等教育学専任講師 國分有穂先生

初等教育学科の國分有穂先生は、英語教育や認知言語学、小学校の英語指導法を研究なさっている。國分先生にとって英語は幼い頃から身近な存在で、高校生の時にアメリカ

カミネソタ州へ短期留学をされた。参加した同世代二〇か国の学生の中で積極的にコミュニケーションを図ろうとした日本人の姿を目の当たりにし、悲しい気持ちになられたのだとか。こうした経験から、子どもの頃から英語に親しめるよう、小学校からの早期教育に携わりたいと考えるようになったのだという。しかし、小学校で英語教育の是非が問題となり、小学校の英語教員となる夢をいったん中断し、教育

現場で経験を積もうと、都内の中高一貫校や短大、大学等で教鞭をとられた。教鞭をとる中でTESOL(英語が母語でない人向けの英語教授法に関する資格)の取得や、実践的な英語教育を学び直したいとの思いから、アメリカの大学院へ入学し、努力を重ね充実した日々を過ごされたそう。卒業式は、卒業生の親族も大勢列席する大規模で華々しいものであった。その晴れやかな日を迎え、改めて大学院生活が実り多きものであったと思われ

たそう。大学院卒業後は、念願であった、小学校での教鞭をとる機会に恵まれたが、そこでも試行錯誤の連続だったという。こうした経験を活かし、後輩への助力ともなるよう、現在行っている研究を始めた。最後に、國分先生は、学生時代にこそ先生が感じられたような異文化体験をたくさん重ねて欲しいと話された。さらに、諦めなければ道は必ずつながるので、壁や逆境に負けず、自分の進みたい道に進んで欲しいとお言葉をくださった。國分先生の、諦めずに進む力や、その時々で自分のベストをつくされる姿勢をぜひ見習いたいと思う。(学報委員 行方麻里子・橋本 薫)

WWG (Women's Worth Leadership Group)

~留学生による留学生支援の会~ 留学生マナー講座



みなさん、こんにちは。WWGのティンイです。

この度久しぶりに、留学生支援活動を4月28日(土)に開催しました。今回は来日したばかりの外国人留学生を対象に「日本人のマナー講座」を企画しました。レクチャーとディスカッションを行い、日本で生活するにあたって敬語の重要性を伝えました。参加者は学外の留学生6人の他に、WWGの活動見学ということでビジネスデザイン学科の1年生、3人が参加してくださいました。今回は、ターゲットが日本語を習い始めの留学生ということで、内容を正確に理解してもらうためにメンバーによる中国語と英語の同時通訳を用意しました。

また、当日はビジネスデザイン学科の飴善先生による「お疲れ様です」という言葉の使い方のミニレクチャーを特別にいただくことができました。ゴールデンウィーク初日ということもあり参加者は少なかったものの、次に繋げることでできる大変有意義な活動を行えたと思います。この活動は一度だけに留まらず、今回の成功・失敗を生かし6月に2回目のワークショップを行う予定です。(ビジネス TEE XIN YEE)

# POWER ENGLISH

## ”毎日”は、力なり



今年度パワーイングリッシュ参加者募集説明会の様子

昨年、キャンパス内で受講することができた英会話「POWER ENGLISH」に参加した。クラスは月曜日から金曜日まで毎日四〇分、自分の都合に合わせて講義の空き時間や放

課後を利用して参加するシステムだ。授業はゲーム感覚で、楽しみながら英語の会話表現を学ぶことができる内容であった。初めは知っている人も少なく緊張したが、毎日参加するうちに学年を越えてたっくさんの人と仲良くなれた。英語には敬語の表現が少ないので年齢が違っても、よりフレンドリーに会話することができた。講師の先生も優しく、とても丁寧でわかりやすい。通常のレッスン時間のほかに、自由に参加することができ、担当の講師の

先生以外のクラスに参加することもでき、多くの刺激を受けた。ハロウィンやクリスマスなどの時期にはクラス混合でゲームするなど季節ごとにパーティーを楽しんだ。初めは自分の意見を表現するのが苦手だったが、継続的にレッスンを受けるにつれてすっかりとした意見を英語で表現できるようになった。まだ拙い部分も多いが、今年度は更にネイティブに近い英語表現ができるように自分の足りない部分を補いたい。

(管理 茂川明里)

## せたがやインクルージョンフェスティバル2018 「みんなつながれ、にんげんだもの」

七月二二日(日)と二三(月)の二日間、創立者記念講堂を中心に「せたがやインクルージョンフェスティバル2018」が開催される。これは、青少年を主体とした地域活性化

と各分野の永続的な発展に寄与するため、すべての人々が垣根なく交流し、だれでも自由に参加できるイベントである。私は、実行委員長として、音楽やスポーツを通じ、子どもから大人まで、障がい者、高齢者、様々な人が楽しめる企画



世田谷インクルージョンフェスティバル実行委員会による記者会見の様子



モザイクアート完成予想図

その中でもメインイベントである「モザイクアート」

(福祉 高橋綾乃)

## 平成三十年度 学寮報告 初教 4/18〜21

初等教育学科の一年生は、三年生の先輩方と一緒に、四月一八日から二日まで千葉県にある望秀海浜学寮に参加した。私たちは附属中高部の頃から何回も学寮に行ったことはあるが、大学生活初めての学寮に新たな気持ちで参加した。今回の研修では、初等教育学科ならではのテーマで、模擬授業や手遊びなどのより専門性のあるプログラムが多かったため、将来の夢に繋げることができた。それに加え、学寮という集団生活の中で社会性やコミュニケーション能力を養うことができたと思う。私たちの学寮は



テーマに沿って試行錯誤

入学式からわずか二週間で学寮に出発したため不安があったが、スポーツ大会などを通して、自然と周囲の人と協力し、白熱した試合展開となり大いに汗を流した。この学



スポーツ大会で団結を高めるチームの輪

寮の経験をこれから先の大学生活へ生かしていきたいと思う。

(初教 市川 涼音・岩崎 三季)

## 留学生交流会を開催

四月一八日(水)、今年度の留学生交流会を八号館一階Global Loungeで開催した。金尾朗副学長の歓迎の言葉で始まった同交流会は、新入生の所属学科長などの教員および学生を含めて一〇〇名以上が集う国際交流の場となった。立食形式で行われ、関係者一同は昼食



美味しい食事で万国共通の笑顔に



初心を忘れずに有意義な留学生を送ります!

を楽しみながら新入留学生を迎え入れ、親睦を深めた。司会を務めた国際交流グループChawaの普世千晶さん(英二一年)と藤田海音さん(国際二年)を始めとし、国際交流に関心のある日本人学生が世界各国から集まる留学生と歓談する様子が印象的だった。今年度は一〇か国から正規留学生一五名と科目等履修生三一名の合計四六名の留学生を迎え入れた。在学生と合わせた、一三か国一〇五名の留学生が在籍する。留学生交流会は後期にも開催する予定。

(国際交流課)

## 平成三〇年度 第一回 学生会館フロアミーティングを開催

四月一六日、学生会館の第一回フロアミーティングを開催した。会場は三軒茶屋のシンボル、キャロットタワーその最上階にあるオークラレストランスカイ

を一望することができた。副学長金尾先生や管理入さんからご挨拶をいただき、ピュッフェ形式の食事会が始まった。時間を区切り、フロアや学科ごとに会食を楽しんだ。同じ学科の先輩に大学生活のことを質問できる機



キャロットタワーの最上階で会食

会は少ないため、とても有意義な時間となった。今回をきっかけとして、新たな仲間たちとの共同生活が充実したものになることを期待したい。

(運営係 地田初音・唐國わか)

## 行事予定

- 6月1日(金) 光葉博物館春の特別展「ことばのいろ ことばのおと〜人見東明と白秋・露風の詩の世界〜」  
図書館特別展「図書館70年の歩み〜特殊コレクションヒストリー〜」(〜6月30日)
- 6月 4日(月) 第95回メンターフェア (12:00〜13:15)
- 6月 5日(火) 学内推薦(大学院修士)合格発表 (13:00)
- 6月 6日(水) 大学院7月期入学試験 願書受付開始 (〜18日)  
【女教】国際ジェンダー学会共催シンポジウム 人間の安全保障と市民社会 ジェンダーの視点から過去を振り返り未来を見据える (15:30)
- 6月 9日(土) 第57回メンターカフェ (13:30〜15:15)
- 6月13日(水) 第96回メンターフェア (15:00〜16:15)
- 6月17日(日) 第2回オープンキャンパス (10:00〜15:00)
- 6月19日(火) SSIP (SWU Summer International Program) オープニング  
【文研】京劇 (18:15)
- 6月20日(水) 【女教】女性とキャリア (15:30)
- 6月23日(土) 保護者懇談会
- 6月25日(月) 【文研】ロシア・ナショナル管弦楽団 (18:15)
- 6月27日(水) 第97回メンターフェア (15:00〜16:15)
- 6月28日(木) 【文研】AUN J クラシックオーケストラ(18:15)
- 6月29日(金) 図書館情報検索ガイダンス最終日